

平成18年度 第34回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会
 兼 第37回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会
 大会第6日:平成18年11月4日(土)
 会場:岐阜アリーナ

男子の部

<審判>

準決勝 美濃加茂 97 $\left[\begin{array}{l} 24 - 20 \\ 29 - 21 \\ 22 - 19 \\ 22 - 26 \end{array} \right]$ 86 岐阜農林 高橋英彦・山田祐治

立ち上がり美濃加茂は④熊澤、⑫馬場のシュートが決まり主導権を奪う。岐阜農林も⑬小栗の2本の3点シュートなどで応戦する。第1ピリオドは24-20と美濃加茂が一歩リードする。第2ピリオドに入ると岐阜農林はゾーンディフェンスに変え、⑪今井、⑦川崎がシュートを決め必死に追い上げる。しかし美濃加茂は④熊澤の縦横無尽の活躍で相手を寄せ付けず、⑦波多野のシュートもよく決まり、前半は53-41と美濃加茂がリードして折り返す。

第3ピリオドに入っても美濃加茂は落ち着いたゲーム運びで⑦波多野、⑤安藤らが3点シュートを決め主導権を譲らない。しかし第4ピリオドに入ると、美濃加茂は勝ちを意識したか、攻撃が消極的になった。そこで岐阜農林のハーフトラップディフェンスが成功し、スティールから速攻が決まり、また⑬小栗の3点シュートも入り、一時は3点差まで詰め寄る。だが美濃加茂はあわてずにボールを運び、⑤安藤が3点シュートを2本決め、④熊澤もファウルで得たフリースローを4本決め、粘る岐阜農林を振り切って97-86で勝利し、決勝に進んだ。岐阜農林も⑥佐野を軸によく粘ったが、最後のシュートが決まらず、わずかに及ばなかった。(名越龍男)

準決勝 岐阜総合 90 $\left[\begin{array}{l} 16 - 16 \\ 19 - 8 \\ 23 - 8 \\ 32 - 5 \end{array} \right]$ 37 岐南工 西尾 司・棚橋英一

第1ピリオド、両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜総合は⑥葉原のポストシュート、⑧村瀬、⑬田代の3点シュートで得点をあげれば、岐南工は⑪高橋、⑤林の3点シュートで得点し互角の出足となる。第1ピリオドは16-16の同点となる。第2ピリオドに入ると、岐阜総合は⑥葉原のゴール下シュート、⑬田代の速攻やジャンプシュートで流れをつかみ、さらにディフェンスを3-2ゾーンに変えて、激しい当たりをみせてゲームの主導権を握る。岐南工も⑪高橋のシュートで対抗するが、相手のディフェンスを攻めきれない。前半は35-24と岐阜総合が11点リードする。

第3ピリオドに入ると、岐阜総合はさらにディフェンスの頑張りを見せ、相手のミスを誘うと④杉本のジャンプシュート、⑥葉原のポストシュート、⑬田代のシュートを次々に決め、一気に点差を広げる。岐阜総合はメンバーが代わっても積極的にディフェンスを頑張り、ボールを奪っては次々に速攻につなげ⑪上村のレイアップシュートや⑦今井の3点シュートなどで得点を重ね、最後は90-37の大差で岐南工を下し、決勝の舞台へと駒を進めた。岐南工は相手の激しいディフェンスに攻め手を欠き、後半はわずかに13得点に終わった。(下畑耕一)

女子の部

<審判>

準決勝	岐阜女子	122	$\left[\begin{array}{l} 29 - 4 \\ 25 - 13 \\ 31 - 10 \\ 37 - 14 \end{array} \right]$	41	岐阜総合	岩永英夫・長屋 貴
-----	------	-----	---	----	------	-----------

岐阜女子はオールコートマンツーマン、岐阜総合はマッチアップゾーンで始まる。岐阜女子は相手のドリブルに対して積極的にトラップを仕掛け、インターセプトからゴール下へと走り込み、次々に得点を重ねていく。またインサイドでは④田中優、⑦田中沙、⑧汪の高さを生かし攻撃の手を緩めない。前半は54-17と岐阜女子が大きく差をつけた。岐阜総合はボール運びに苦しみ、パスもうまくつながらず、自分たちのバスケットをさせてもらえない。ゲームが進むにつれて、少しずつ相手のディフェンスへの対応ができるようになり、⑩安田、④田代の3点シュートで反撃を図るが、劣勢を覆すまでにはいたらない。

第3ピリオドに入ると、岐阜女子はスタートメンバーをベンチに下げる余裕をみせ、⑮森本、⑯宮部、⑨斬、⑱上原などが次々とシュートを決め、着実に点差を広げていく。1試合を通してオールコートディフェンスでプレッシャーをかけ続け、速い展開でシュートを決めた岐阜女子が122-41で岐阜総合を下し、決勝へと進んだ。岐阜総合も⑧嶋内、⑮酒井のゴール下での頑張りや、⑤角野、④田代の3点シュートなどでリズムをつかみかけるが、相手のディフェンスを崩すまでにはいたらなかった。(山田祐治)

準決勝	県岐阜商	65	$\left[\begin{array}{l} 19 - 15 \\ 19 - 14 \\ 8 - 15 \\ 19 - 16 \end{array} \right]$	60	高山西	細井恒樹・後藤慎二
-----	------	----	---	----	-----	-----------

第1ピリオド、県岐阜商はマンツーマン、高山西は3-2ゾーンでスタートする。県岐阜商は出足から④長瀬の3点シュート、⑤小倉のドライブインなどで得点を重ねる。第2ピリオド途中で相手の激しいディフェンスに苦しみ、一時は同点に追いつかれるものの、その後⑫山北がよくジャンプシュートを決め、リードを許さない。一方高山西は第1ピリオドはセンター⑨張のインサイドプレーを軸に得点をあげ、第2ピリオドは⑨張をベンチに下げ、マンツーマンディフェンスに切り換え、必死の追い上げを図る。前半は県岐阜商が38-29で9点をリードして折り返す。

第3ピリオドに入ると、高山西がリバウンドを確実に支配して流れをつかみ、第4ピリオド序盤には⑤虎井、⑨張のシュートで一時は逆転に成功する。県岐阜商も④長瀬、⑥小野島などのシュートで再度逆転し、残り1分まで1点2点を競り合う緊迫したゲームとなる。残り1分を切っただけで、県岐阜商は④長瀬のスティールから⑥小野島が速攻を決め、最後までフリースローを得た⑤小倉が確実に2本とも決め、65-60で勝利して決勝へと進んだ。高山西も⑥室谷がよくシュートを決め、必死に追い上げたものの最後の痛恨のターンオーバーに泣いた。(宮崎泰彦)